

《アンケート結果》

	現 行		増単検討後	
	34単位以上 39単位以下	109校	66.90%	53校
40単位以上	54校	33.10%	110校	67.50%
平 均	40.7単位		42単位	

アンケートの結果、現行でも最低単位数 34 単位のカリキュラム実施の学校は数校で、他はみなそれ以上の単位数を履修している。

それは福祉の需要に対し、高卒でもより質の高い実践力のある人材を育成するために日々努力している一つの表れであろう。そこには当然、結果として介護福祉士国家資格取得に向けた配慮もある。また、現行単位数から改訂案を元に調査した結果、割合が逆転するなど各校とも福祉教科に力をいれる方向で検討がなされた。

(2) 福祉担当教員の養成推移

① 平成 15 年度からの教科「福祉」の設置のため、平成 12 年度から養成講習会を実施し、さらに認定試験合格者による教員の養成確保と都道府県による「福祉」教員の採用を進めているが、現状は次のとおりである。

② 平成 12 年度から平成 15 年度までの養成講習会認定試験合格者数

・教員養成講習会受講修了者	1,517 名
・認定試験合格者	173 名
計	1,690 名

③ 公立高等学校教員採用試験「福祉」結果

	平成 8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
実施都道府県	1	1	2	1	1	2	4	8	12	*2市含む 22
名簿登載者数	2	1	2	1	11	2	4	12	20	37

公立の調査のみの資料なので、私立を加えると相当数となる。

④ 教科「福祉」の実施以前から都道府県では福祉教員の新規採用を進めて来ていますが、平成 15 年度に教科「福祉」が発足してからは、採用選考試験実施都道府県名簿登載者数とともに大幅に増加し、福祉教育の幅の広がりや資質の向上を図っていることが読みとれるものである。